

分析結果報告書〔 8 〕 2 / 5

1. 試料液 (1mol/L塩酸溶出液) の調製

< 複数回測定では併行測定のため、下記の < 試料液の調製 > 以降は 1 回目の条件を記入する >

< 試料液 >

容器	種類	1. ポリエチレン瓶 2. ポリプロピレン瓶 3. ガラス瓶 4. その他 ()
	容量	1. 100mL 2. その他 () mL
試料 (底質) 量		1. 10 g 2. その他 () g
1 mol/L塩酸	種類	1. 市販品: 1mol/L塩酸溶液を使用 2. 自家調製: () mol/L塩酸溶液より調製 注 1) 3. その他 ()
1 mol/L塩酸	使用量	1. 50mL 2. その他 () mL

注 1) 濃塩酸等を使用して調製した場合には、「12mol/L」のように記入する。

< 振とうまでの放置時間 >

試料液の調製から振とうまでの 放置時間	() 時間 注 2)
------------------------	--------------

注 2) 試料液の調製後直ちに振とうした場合には 0 (ゼロ) 時間とする。
時間単位で記入する (例えば、30分では 0.5時間とする)。

< 振とう >

容器の置き方 / 振とう方向	1. 横置き / 水平振り 2. 縦置き / 水平振り 3. 横置き / 垂直振り 4. 縦置き / 垂直振り 5. その他 ()
気温	() 注 3)
気圧	() 気圧 注 3)
振とう機	() 回/分
振とう回数	() 回/分
振とう幅	() cm
振とう時間	1. 30分間 2. その他 () 分間
方法	1. 連続振とう 2. その他 ()

注 3) 振とう開始時の気温 (室温)、気圧の概略値を記入する。

< 振とう後の放置時間 >

振とうからろ過までの放置時間	() 時間 注 4)
----------------	--------------

注 4) 振とう後直ちにろ過した場合には 0 (ゼロ) 時間とする。
時間単位で記入する (例えば、30分では 0.5時間とする)。

< ろ過 >

ろ過	ろ紙	1. JIS 5種Bのもの 2. その他 ()
	方法	1. 自然ろ過 2. 吸引ろ過 3. その他 ()

< 試料液 (1mol/L塩酸溶出液) の調製後 >

試料液調製から検定 (各項目の分析) までの時間 注 5)	() 時間
試料液の保存状況	1. 添加しない 2. 硝酸を添加 3. 塩酸を添加 4. その他の添加 ()
酸の添加	1. 冷暗所 2. 室内 (室温) 3. その他 ()
保存方法	約 ()
保存温度 注 6)	

注 5) 試料液調製後直ちに分析に必要な量をはかり取った場合には、0 (ゼロ) 時間とする。

注 6) 保存していない (試料液調製後直ちに分析に必要な量をはかり取った) 場合には、記入する必要はない。
保存温度は概略を記入する。

分析結果報告書〔 8 〕 3 / 5

2. 検定の操作 (砒素の分析方法)

< 前処理 (試験溶液の調製) >

前処理	1. 前処理を行わない 2. 前処理を行う 注1)
試料液の量	() mL
前処理：用いた酸の量 注2)	
硝酸	() mL
硫酸	() mL
過マンガン酸カリウム溶液(3g/L)	() mL
過塩素酸	() mL
塩酸	() mL
過酸化水素	() mL
その他の酸	種類() : 量() mL
前処理：装置 (循環式の分解装置の使用)	1. 循環式の分解装置を使用しない 2. 循環式の分解装置を使用
前処理後の定容量(試験溶液量)注3)	() mL

注1) 前処理を行った場合には、「試料液の量」以降を記入する。

注2) 使用しなかった場合には、「0 (ゼロ)」とする。

注3) 定容としなかった場合には、記入しない。

< 水素化物発生法の予備還元等 > (原子吸光法、ICP発光分光分析法及び吸光光度法、並びにICP質量分析法で水素化物発生法の場合に記入する)

試験溶液の分取量 注4)	() mL
予備還元等に用いた試薬 注5)	
塩酸	1. 使用する：濃度() mol/L、添加量() mL 2. 使用しない
よう化カリウム溶液	1. 使用する：濃度() g/L、添加量() mL 2. 使用しない
アスコルビン酸溶液	1. 使用する：濃度() g/L、添加量() mL 2. 使用しない
塩化すず(II)溶液	1. 使用する：濃度() g/L、添加量() mL 2. 使用しない
鉄()溶液	1. 使用する：濃度() g/L、添加量() mL 2. 使用しない
その他の試薬	試薬名()
予備還元の時間	() 分
予備還元時の温度	1. 加温しない(静置) 2. 加温する：約()
予備還元時(後)の溶液(定容量)	1. 20mL 2. その他()
還元剤	
テトラヒドロほう酸ナトリウム	1. 使用する(10g/Lの溶液) 2. 使用する(濃度等：) 3. 使用しない
亜鉛	1. 使用する(g) 2. 使用しない
その他	名称等()
水素化物の導入方法	1. 連続式 2. パッチ式(貯圧式) 3. パッチ式(貯圧式以外) 4. その他()
水素化物の導入方法(連続式の場合)	1. 試料溶液、還元剤(テトラヒドロほう酸ナトリウム)、塩酸溶液を定量的に導入 塩酸溶液の濃度() mol/L 2. 試料溶液、還元剤(テトラヒドロほう酸ナトリウム)を定量的に導入(塩酸溶液を使用しない) 3. その他()

注4) 分取しなかった又は定容としなかった場合には、記入しない。

注5) 予備還元を使用した試薬(溶液)については、その溶液の濃度(g/L又はmol/L)と添加量(mL)を記入する。

< 水素化物発生原子吸光法及び水素化物発生ICP発光分光分析法 >

原子吸光分析装置 水素化物の導入 (原子化) バックグラウンド補正	1. 水素-アルゴンフレーム 2. 水素-窒素フレーム 3. 加熱石英セル 4. その他() 1. 行わない 2. 重水素ランプ 3. 偏光ビーム 4. SR補正(自己反転法) 5. その他()
測定波長	() nm
ICP発光分光分析装置 装置の型式	1. 波長走査(シーケンシャル) 2. 波長固定(マルチ) 3. CCD検出器 4. CID検出器 5. その他()
バックグラウンド補正	1. 行う 2. 行わない
超音波ネブライザの使用	1. 使用しない 2. 使用する
測定時間	() 秒
測定波長	() nm

分析結果報告書〔 8 〕 4 / 5

< ICP質量分析法 >

試験溶液の希釈	希釈倍率 () 注6)
ICP質量分析計 メーカー・型式	1. アジレント (1 1 . 7500シリーズ 1 2 . 7700シリーズ 1 3 . 8800シリーズ 1 4 . その他 ()) 2. サーマサイエンティフィック (2 1 . iCAP Q 2 2 . その他 ()) 3. 島津 (3 1 . ICPM-8500シリーズ 3 2 . その他 ()) 4. セイコー (4 1 . SPQ8000シリーズ 4 2 . SPQ9000シリーズ 4 3 . その他 ()) 5. パーキンエルマー (5 1 . NexION 300シリーズ 5 2 . その他 ()) 6. 日立 (6 1 . SPQ9700シリーズ 6 2 . その他 ()) 7. その他:メーカー () 型式 ()
スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計 コリジョン・リアクションセル	1. 四重極 2. 二重収束 3. その他 () 1. 行わない 2. 行う 「 2 . 行う 」 場合の使用ガスの種類 1. ヘリウム 2. 水素 3. メタン 4. アンモニア 5. キセノン 6. その他 () 「 2 . 行う 」 場合の使用ガスの流量 () mL / 分
水素化物発生 補正式による補正	1. 行わない 2. 行う (注 1 0) 1. 行わない 2. 行う (その方法の概要:)) 補正前の指示値 () 補正後の指示値 () 注 1 1)
その他	1. 行わない 2. 行う ())
超音波セラピーの使用	1. 使用しない 2. 使用する
測定時の分解能 (概数)	()
積分時間 (質量数毎)	() 秒
質量数	1. 75 2. その他 ()

注6) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

注7) 水素化物発生を行った場合には、その概要は上記<水素化物発生法の予備還元等>に記入する。

注8) 指示値としては「イオンカウント値」等を記入する。

< 吸光光度法 >

吸収液	1. シェルビナール・チオカルバミン酸銀とピリジンの硝酸鉛溶液 2. シェルビナール・チオカルバミン酸銀のピリジン溶液 3. その他 ()
測定波長	() nm

< 検量線の作成等 >

定量方法 方法 内標準法 内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 1. イットリウム(Y) 2. インジウム(In) 3. イッテルビウム(Yb) 4. タリウム(Tl) 5. ビスマス(Bi) 6. ベリリウム(Be) 7. ロジウム(Rh) 8. レニウム(Re) 9. テルル(Te) 10. ガリウム(Ga) 11. ゲルマニウム(Ge) 12. スカンジウム(Sc) 13. コバルト(Co) 14. その他 ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小 () ~ 最大 () 注9) ()
試料の指示値	1回目 () 注10) 2回目 () 3回目 () 4回目 () 5回目 ()
空試験の指示値	() 注11)
検出下限値	() mg/kg 注12)

注9) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) を示す。ただし、吸光光度法では量 (µg) を示す。

注10) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

測定回数分の指示値を記入する。

なお、指示値は「検量線の最高濃度」、「試料」、「空試験」とも同じもの (例えばピーク高さ) を記入する。

注11) 標準添加法では記入しない。

注12) 底質試料中の濃度 (mg/kg) を示す。

分析結果報告書〔 8 〕 5 / 5

分析実施にあたって特に留意した点又は問題と感 じた点 (該当する分析方法欄に ついて、操作をひとつ選 択し、その具体的な概要 を記入する)	該当する分 析方法 (操作)	(水素化物発生法) 1. なし 2. 前処理 3. 予備還元 4. 還元(水素化物の発生) 5. 原子吸光法による測定 6. ICP発光分光分析法による測定 7. その他() ----- (ICP質量分析法) 1. なし 2. 前処理 3. ICP質量分析法による測定 4. その他()
	その概要	(選択した操作の留意点等の内容を記入する)
分析結果に影響した(又 は影響したと想定され る)点 (該当する分析方法欄に ついて、操作をひとつ選 択し、その具体的な概要 を記入する)	該当する分 析方法 (操作)	(水素化物発生法) 1. なし 2. 前処理 3. 予備還元 4. 還元(水素化物の発生) 5. 原子吸光法による測定 6. ICP発光分光分析法による測定 7. その他() ----- (ICP質量分析法) 1. なし 2. 前処理 3. ICP質量分析法による測定 4. その他()
	その概要	(選択した操作の分析結果に影響した(又は想定される)点の内容を記入する)

計算式	
-----	--